

東海地方の自動車や鋳造、産業部品加工といったメーカーでつくる一般社団法人日本鋳造協会東海支部（事務局・トヨタ自動車）の会員ら約20人が10月8日、出雲市内にある鋳さい処分業などの㈱RēFLĒX（出雲市平田町）のリサイクルプラントを見学した。精工所などから出る鋳物くずを有効利用する同社の環境技術を学んだ。



リフレックス社のリサイクルプラントを見学する日本鋳造協会東海支部の会員ら＝出雲市上岡田町

リフレックスの鋳物くず リサイクルプラント見学

日本鋳造協会東海支部が来県

鋳物廃砂を造粒・混練して製造し、道路の盛土材などに使用する「再生土」のバックヤードといった施設を見学した。平田商工会議所（出雲市平田町）に移動して行った事業説明会では、リフレックスの

山崎章弘社長が、公共事業の削減などから「生きるすべを見つけないといけない、自分たちの仕事は自分たちでつくっていかう、という思いが事の起こり」と述べた。トヨタ自動車材料技術開発部金属材料室（愛知県豊田市）の牧野浩主査は「鋳造関連の企業はどうしても排出物が多い。鋳物業者、建設業者、行政が連携した処理の「枠組み」は大変参考になった」と話した。（錦織拓郎）

の食材を使用した上、500時間熟成させ、深みのある芳醇な味わいを生み出した。160g（8冊分）入り、税別250円。鳥取グリコは江崎グリコの「熟ハヤシ」も全量製造しており、同時リニューアルとなった「プレミアム熟ハヤシ」も継続して全て担う。鳥取グリコは1975年創業で、従業員123人。（堀江玄）



鳥取グリコが全量製造する「プレミアム熟カレー」

「プレミアム熟カレー」 江崎グリコが発売

鳥取グリコが全量製造

江崎グリコ㈱（大阪市西淀川区）が「プレミアム熟カレー」を発売した。人気商品だった「熟カレー」のリニューアル版で、子会社の鳥取グリコ㈱（鳥取県南部町倭、内屋安隆社長）が全量を製造する。

も引き続き担う。甘口、中辛、辛口の3種。野菜や肉、魚介類など20種類

電気設備工事や情報通信設備工事などを手がける㈱中電工（広島市）は、自社のキャラクター「こうじろう」を誕生させるとともに、新しいキャラクター「明日を、こうしよう。中電工」を策定した。かわいらしいキャラクターは若年層や女性へのPRが狙い。10月から広報物などに使用している。

中電工がキャラクターを作るのは初めて。でも「人と技術で、夢」

リフレックスは、出雲市内の建設関連業者14社でつくる「たてぬい建設事業協同組合」を母体とし、産業廃棄物として排出される鋳物廃砂やスラグを再利用し、土木資材などとして製造・販売することを目的に2005年に設立した。

旧平田市に多数誘致された

鋳物鋳造会社から排出される鋳物くずの処分経費が、各工場にとって悩みの種だったことが背景にある。鳥根県、しまね産業振興財団（松江市北陵町）などの助成金を活用しながら研究を進めている。一行は出雲市上岡田町にあるリサイクルプラントを訪れ、鋳物廃砂、攪拌造粒装置、